

1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年2月26日

【評価実施概要】

事業所番号	1570301778
法人名	社会福祉法人 上越市社会福祉協議会
事業所名	グループホーム安塚やすらぎ荘
所在地	新潟県上越市安塚区和田616番地子 (電話) 025-592-3002
評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階
訪問調査日	平成 20年 1月 15日

【情報提供票より】(19年 12月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	9人 常勤 8人、非常勤 1人、常勤換算 6.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階 建ての 2階 部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または	月額 30,000 円		

(4) 利用者の概要 (19年 12月現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2		2 名	
要介護3	3 名	要介護4		3 名	
要介護5	0 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 82 歳	最低	75 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	安塚診療所、ゆきだるまクリニック、飯原歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム安塚やすらぎ荘」は、閉校になった地元小学校を改築した建物の2階にある。1階には上越市社会福祉協議会安塚支所や地域包括支援センター、デイサービスセンター、2階にはショートステイ事業所が併設しており、それぞれが連携し協力する体制ができています。小学校を改築した事業所であることや、天然温泉を完備した高齢者活動促進施設があり、地域住民にも存在が広く認識されている。グループホーム内は、家庭的な設備や装飾の工夫から、暖かみのある親しみやすい空間となっている。浴室の使用やホーム入口の状況などのハード面の制約があるが、職員はそれらから来る利用者のストレスを認識し、改善に向けて市町村や母体法人、併設他サービスとの話し合いを重ねている。また、職員は明るく笑顔を絶やさずに利用者に接しており、一人ひとりの表情や態度から思いを引き出し、制約がある中でも可能な限り対応できるよう努力している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果についても前向きにとらえ、具体的な改善に取り組んだ。「利用者一人ひとりに合わせた居室づくり」では、本人と一緒に写真や装飾品を飾ったり、ベランダにプランターを置き利用者と一緒に世話をするなど工夫している。また、プライバシーに配慮し、居室のドアガラスには一人ひとり好きな柄の手作りのれんをかけた。「調理等への参画」は、利用者の希望や畑でとれた野菜等によって献立を変更するなど柔軟に対応し、また、利用者それぞれの出来る範囲で調理に参加してもらっている。「個別の記録」は、利用者一人ひとりの言葉や表情などを記録できるよう、様式を変更して取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員は評価の意義を理解しており、今回の自己評価も皆で分担して実施し、話し合いながら日々のケアを振り返る機会とした。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、利用者、家族、民生委員、老人会、自治会、地域包括支援センターからそれぞれ委員として参加してもらっている。ホームの運営や行事、評価結果などについて報告し委員からの意見を踏まえてサービスのあり方を検討している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>2ヶ月に1回ホーム便りを送付するほか、随時面会時や電話で利用者の様子を家族に伝えている。運営推進会議の議事録を全家族に送付したり、複合施設全体の玄関、ホームの中に意見箱を設置するとともに、家族には日頃から何かあったら伝えてほしい旨説明し、意見を引き出せるよう働きかけしている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの理念や生活の様子をホーム便りに掲載し、地域に回覧している。地域の保育園に働きかけ、園児と利用者との交流を行なっている。自治会に加入しており、地域行事への誘い等を受けることもあるが、気候や立地等の条件からなかなか参加できていない。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「和」を大切にすること、「思いやり」と「まごころ」、「明るい笑顔」を理念として掲げている。		今後さらに、地域の一員としての利用者の生活や活動をより広げることができるよう、地域密着型サービスとしてのホームの役割や支援のあり方についても理念として検討し、家族や地域と共有していくことを期待したい。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、毎朝のミーティング時に理念を唱和して意識し、利用者のケアで困ったことや迷ったことがあった際にも理念に立ち返り話し合っている。		
2 - 2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	ホームの理念や生活の様子をホーム便りに掲載し、2ヶ月に1回家族に送付したり、地域に回覧している。		利用者の地域参加の場をさらに広げるため、グループホームの役割や、ホームで暮らす利用者に対する地域の理解を深められるよう、よりいっそうの取り組みを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の保育園に働きかけ、園児と利用者との交流を行なっている。自治会に加入しており、地域行事への誘い等を受けることもあるが、気候や立地等の条件からなかなか参加できていない。		ホーム全体とともに、利用者一人ひとりが地域の一員として溶け込み、積極的に地域活動に参加したり、地域での役割を担えるよう働きかけ、地域の人々との交流が深まることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義を理解しており、今回の自己評価も皆で分担して実施し、話し合いながら日々のケアを振り返る機会とした。前回の外部評価結果についても前向きにとらえ、具体的な改善に取り組んだ。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、ホームの運営や行事、評価結果などについて報告している。委員からの意見を踏まえてサービスのあり方を検討している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの運営母体が上越市社会福祉協議会であり、市との連絡も密に行なわれている。ホームでもサービスの改善について市と協議したり、併設の地域包括支援センター職員からホームの職員会議に参加してもらい、意見交換をしている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者および職員は、ホーム内で虐待が発生することのないよう、また、虐待を見過ごすことのないよう努めている。		今後定期的に、虐待に関する研修や、日々の自分たちのケアに虐待にあたる行為がないか振り返る機会を持つとともに、発見時の対応を明確にし職員間で周知徹底することを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回、行事や生活の様子の写真を掲載したホーム便りを送付し、運営推進会議の内容を報告している。利用者の状態は面会時や電話で随時報告し、ホームで管理している金銭の出納状況は面会時に確認してもらっている。		利用者個々の生活の様子について、何かあったときだけではなく、利用者がどのように生活しているのか、日々の当たり前の様子も定期的に家族に報告するよう期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	複合施設全体の玄関、ホームの中に意見箱を設置するとともに、家族には日頃から何かあったら伝えてほしい旨説明している。運営推進会議では家族から具体的な意見が出されており、それを踏まえてサービスの向上に向けて検討している。		苦情が寄せられた場合の対応の仕組みは法人全体で作られており、管理者は把握しているが、家族の声を逃さず速やかに対応できるよう職員へも周知徹底することが望まれる。
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングで利用者へのケアについて話し合ったり、毎月の定例会議でホームの運営について意見交換をしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	母体である社会福祉協議会内に多数の事業所があるため、職員が異動する場合があるが、一度に多くの職員が入れ替わることのないよう配慮している。新しい職員は、他の職員と一緒に利用者にあいさつしたり関わりを持ちながら関係づくりをしている。職員の異動・退職については運営推進会議で報告している。		担当職員制をとっており、異動や退職で担当職員が変わる場合は家族の不安も大きいと考えられるので、その場合の報告や挨拶等、より不安を軽減できるような工夫を期待したい。
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている	各種マニュアルが整備されている。感染症に対しても、法人全体のマニュアルを参照してホームでの対応を整理した手順書を作成して対応した。		マニュアルを定期的に見直しする仕組みづくりをし、日々提供しているサービスを振り返る機会とするなど、マニュアルの見直しとさらなる活用への取り組みを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に研修委員会が設置されており、計画的に研修が実施されている。内外の研修参加後は復命書を作成し、口頭や資料の回覧等で他の職員にも周知している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上越市内の他グループホームの見学を行なったので、今後継続してつながりを持ちたいと考えている。県のグループホーム協議会への加入も検討している。		他ホーム見学で出来たつながりをもとに、継続的な交流や情報交換、ネットワークづくりに取り組むことを期待したい。
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	複合施設全体の管理者や係長が相談に応じたり、ホーム管理者が職員の話聞くなどして悩みやストレスの把握に努めている。		ホームの出入り口がショートステイ利用者が食事や団らんをする談話室内にあり、利用者・職員共に出入りに気を使うことなど、設備面での制約が利用者・職員のストレスにつながっている面が大きい。現在、ショートステイとの検討を重ねるとともに、市へ改修の働きかけもしているとのことなので、サービスの改善につながることを期待したい。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には併設のデイサービス・ショートステイの利用者が多く、なじみの関係ができています。また、事前に本人・家族と面談をしたり、家族にもホームを見学してもらっている。併設サービスの利用者がグループホームに入居にする場合は、サービス間でスムーズに引き継ぎがなされています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事や調理等の活動を一緒に行ったり、一緒に食事を食べることなどを通じ、ともに支えあいながら生活する関係を作っている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者が外泊を希望する場合は協力してもらえよう働きかけたり、ホームの行事に家族にも参加を呼びかけている。		利用者一人ひとりの普段の生活の様子について、定期的に個別の報告を行ない、より情報を共有できるよう期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりについて、思いや希望を聞いたり、言葉での表現が難しい利用者には表情や態度から読み取ったり、意欲を引き出せるよう働きかけている。		
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントを活用し、利用者一人ひとりの生活歴や過去の経験などの情報収集を行なっている。編み物や裁縫、ちぎり絵など、本人の経験や特技を活かした活動を働きかけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人の意向や思いをもとに、面会時等に家族にも意見を聞き、職員間で気づきを話し合って介護計画を作成している。平成20年1月から、毎月の定例会議でも利用者一人ひとりのケアについて話し合う時間を設け、情報をより介護計画に反映出来るよう努めている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは概ね半年としているが、見直しやモニタリングの仕組みが明確ではない。利用者一人ひとりの状態やケア内容について、毎朝のミーティング時に話し合い、介護計画に反映するよう努めているが、変更等に至るまでの話し合いや評価の記録がない。		介護計画のモニタリングや見直しを、本人や家族を含め職員全員でチームとして行う仕組みづくりに期待したい。また、より本人の現状に即した介護計画作成に活用しやすいよう、検討や評価の内容を記録することが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医から往診を受けられる体制であり、また、利用者や家族の状況に応じて必要時には受診を支援している。希望に応じて、医師と連携をとりながら看取りを支援したケースもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の診療所とクリニックが協力医療機関であり、利用者・家族の納得を得てかかりつけ医とし、密に連携を図っている。定期的に往診をしてもらっており、また、緊急時はいつでも往診に来てもらえる体制が整っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者・家族の希望があり、看取りに対応したケースがある。医療機関と連携し、職員が行えない医療行為は家族から行なってもらいながら看取りを行なった。しかし、事業所としての方針はかたまっておらず、迷いがあり、個々の利用者に対する支援について職員間での考え方の統一や、本人や家族・医師と方針を共有するには至っていない。		利用者が重度化した場合や終末期のケアのあり方について、事業所として支援できること・できないことを職員間で話し合い、認識を統一するとともに、それに沿って個々の利用者をどう支援するか、情報交換を密に行ないながら、本人・家族・医師と話し合い、方針を共有することが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の誘導はさりげなく行なうなど、利用者の誇りやプライバシーに配慮した声かけや対応をしている。利用者に関する情報交換を行なう時は、利用者に聞こえないように配慮している。利用者の個人記録は鍵のかかる引き出しに保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事のスピードがゆっくりな方にも、声をかけて寄り添いながら、その人のペースで食事ができるよう配慮していた。立地条件や車輛使用の制限から、外出の希望にその日に対応できないことも多いが、別の日に外出を設定して対応している。		浴室が併設の他サービスと共用であるため曜日や時間帯が限られており、また、1階にあるため安全面から2名の職員が対応するのでホームに残る職員が1名となってしまい、一人ひとりの希望やペースに合わせられないことがある。デイサービス・ショートステイとも話し合いを続けており、職員の勤務体制等も含めてさらなる検討を期待したい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、複合施設の栄養士が栄養バランス等に配慮して作成しているが、利用者の希望や、畑で採れた野菜がある場合などは変更している。食材は基本的には配達だが、毎週木曜日を買ひ物の日としている。調理やおやつ作りなど、可能な利用者には職員と一緒にこなしてもらっている。職員は利用者と一緒に食卓につき、声かけや介助が必要な方には隣に座り、楽しく会話をしながら食事をしている。利用者と同じ食事をとるのは1名であり、他の職員は持参した弁当を食べているが、行事のときやおやつは職員も利用者と同じものを食べ、楽しんでいる。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるよう声かけや誘導を行なっている。重度化してきた利用者も出来る限りオムツにしないよう、一人ひとりに合わせて介助したり、ポータブルトイレを使用するなど工夫している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室はデイサービス・ショートステイと共用となっており、曜日や時間帯に制約がある。季節に合わせて菖蒲湯やみかん風呂にするなど入浴を楽しめるよう工夫している。また、車いすの利用者には、機械浴で安全に入浴できるよう支援している。		毎日の入浴や、夏場汗をかいた時にシャワーを浴びたいなど、利用者からの希望もある。他サービスとの調整・連携を図り、利用者の希望を踏まえた入浴支援が行えるよう、引き続き検討をお願いしたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の得意なことや状態に合わせて、調理に参加してもらったり、縫い物や編み物を働きかけている。敷地内で畑も作っており、畑に行くことが難しい冬季はベランダのプランターで野菜等を育てるなど工夫している。併設デイサービスでのボランティア慰問や行事にも参加し、楽しみごとの機会としている。毎週木曜日は、買い物に出かけたり、おやつ作りを楽しむ日としている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内の散歩や日光浴などにはその都度応じている。利用者の希望を取り入れた外出や、季節の行事等を計画・実施している。また、毎年大衆演劇の鑑賞に家族とともに出かけている。		今後さらに、日常的に地域に出かけ、地域活動に参加する機会を持てるよう取り組みを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者・職員は、身体拘束を行わないことを共通認識とし、実際に拘束のないケアを行なっている。		今後定期的に、身体拘束に関する研修や、日々の自分たちのケアに身体拘束にあたる行為がないか振り返る機会を持ち、認識を深める取り組みに期待したい。
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームが建物の2階部分にあり、ホーム入口はショートステイの談話室内にあるため、出入りの際は、ショートステイ利用者が食事やレクリエーションをしたり、テレビを見ているところを通らなければならない。ホーム利用者で入口を開けて談話室を見る方がおり、ショートステイ利用者から苦情が来たため、その後鍵をかけて対応している。		ホーム入口については、ショートステイとも話し合いを重ね、また、現在市にも改修を働きかけているところである。双方の利用者が気兼ねなく生活できるよう、引き続き検討をお願いしたい。
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故やヒヤリハットがあった場合は、その日のうちに対応策を検討し、周知徹底している。転倒や誤薬防止など、一人ひとりに応じた対応策に取り組んでいる。		事故・ヒヤリハット報告書に対応策実施後の評価を行なう欄があるが、活用が十分ではない。対応策の効果を検証することで、さらなる事故防止への取り組みにつなげることを期待したい。
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	毎年、応急手当や心肺蘇生法、AEDの使用方法等の研修を受けている。また、緊急時には併設する他サービスから応援を得られる体制がある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	毎年定期的に、避難訓練・消火訓練を行なっている。訓練には消防署、「地域かけつけ隊」という自治防災組織からも参加してもらっており、災害時の協力体制ができています。平成19年7月の中越沖地震の際にもすぐに駆けつけてもらった。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事は、毎日チェック表で把握している。水分量も十分に確保できるよう、適宜お茶を提供している。また、食事は一人ひとりの状態に合わせてお粥にするなど形態を変えたり、自助具を用いるなど、食べやすいよう工夫している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節の花を飾ったり、親しみやすい装飾を施して、家庭的な雰囲気づくりをしている。また、イスやソファを置いたり、冬場はコタツのスペースを作るなどして複数の居場所をつくる工夫をしている。食事時はテレビを消して音楽をかけ、会話を楽しめるようにするなど、状況に応じて配慮している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ベッドやタンスはホームで用意したものだが、家族の写真や馴染みの装飾品を飾ったり、ベランダにプランターを置いて利用者自身が世話をできるよう支援するなど、利用者が安心して過ごせる居室となるよう工夫している。</p>		